

河内長野市

南花台における取組みについて

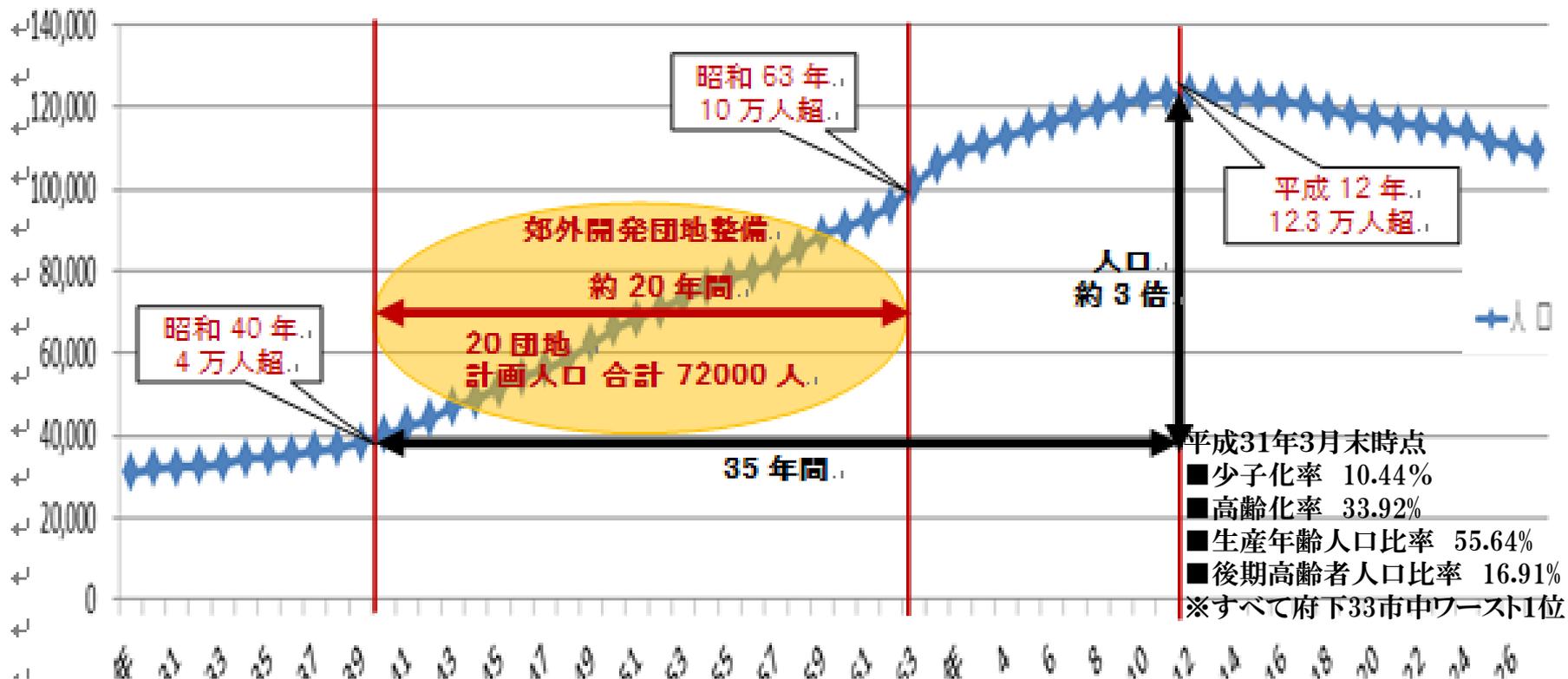
南花台スマートエイジングシティ・団地再生モデル事業
(咲つく南花台プロジェクト)

河内長野市長 島田智明

1-1. 「咲く南花台プロジェクト」着手のきっかけ

1. 開発団地再生モデル構築の必要性の高まり

本市は他市に比較し人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる、その最も大きな原因である開発団地の有り方の検証が急務であった。



1-2. 「咲っく南花台プロジェクト」着手のきっかけ

2. 南花台西小学校跡地活用



平成25年3月に閉校した南花台西小学校跡地の有効活用が急務であった。まちづくりと一体的に検討し、地域の活性化に繋がる効果的な施設誘致を、地域の合意形成を図りながら進めていくこととした。



1-3. 「咲く南花台プロジェクト」着手のきっかけ

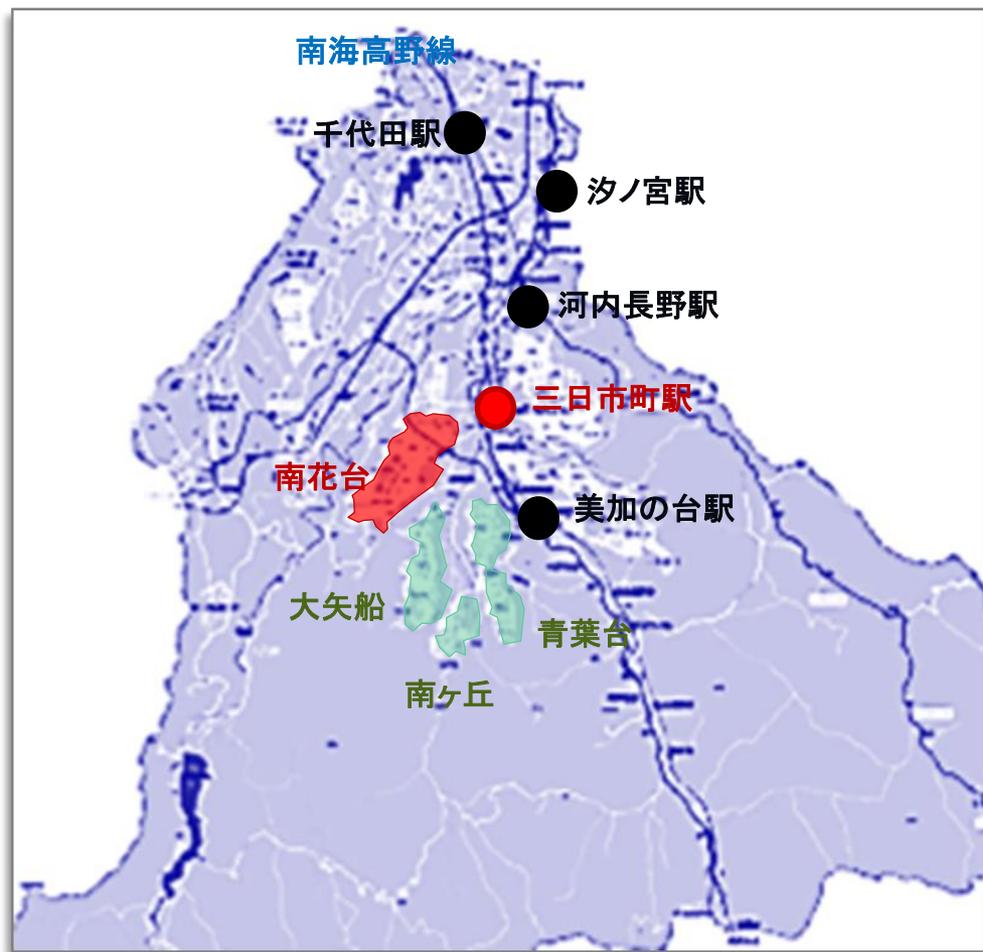
3. 「スマートエイジング・シティ」の提言による大阪府との連携

大阪府市医療戦略会議7つの提言の1つである「スマートエイジング・シティ」の実現に向け、南花台を郊外型開発団地のモデル地区として位置付けられた。

	戦略案	メインとなる主体	キーとなる視点	ねらい	取組みに関わる他の主体
①	予防・疾病管理、府民行動変革	府民 保険者等	× 主役は消費者 治療から予防へ	→ 健康指標の向上 健康格差の解消	保健医療提供機関等、 基礎自治体、大阪府等
②	レプトデータの戦略的活用	保険者等	× 支払者の行動変革 医療費適正化 医療の標準化	→ 医療の価値追求 情報管理産業化	府民、 保健医療提供機関等、 研究機関、大阪府等
	③ 医療情報の電子化とビッグデータの戦略的活用	大阪府	× 創薬等ビッグデータ支援 医療データベース構築		保険者等、 保健医療提供機関等
④	地域密着型医療・介護連携最適モデル実現	医療・介護従事者 保健医療提供機関等 基礎自治体	× 多職種・多機関連携 市町村の主体性	→ 保健医療サービス 持続可能性確保	大阪府
	⑤ 増益モデル型民間病院の高度化・経営基盤強化	民間病院 大阪府	× 増益モデル型 地域や規模の経済 資金調達システム		大阪府
⑥	スマートエイジング・シティ	基礎自治体 大阪府	× サプライチェーン 仕組み・構造変革 まちづくり	→ 重要戦略産業振興 生活総合産業化	府民 保健医療提供機関等 企業
	⑦ スマートエイジング・バレー構想(産業振興)	大阪府	× 研究・開発 実証インフラ 認証制度		企業・研究機関等

2-1. 南花台の概要

南花台への交通アクセス



■公共交通

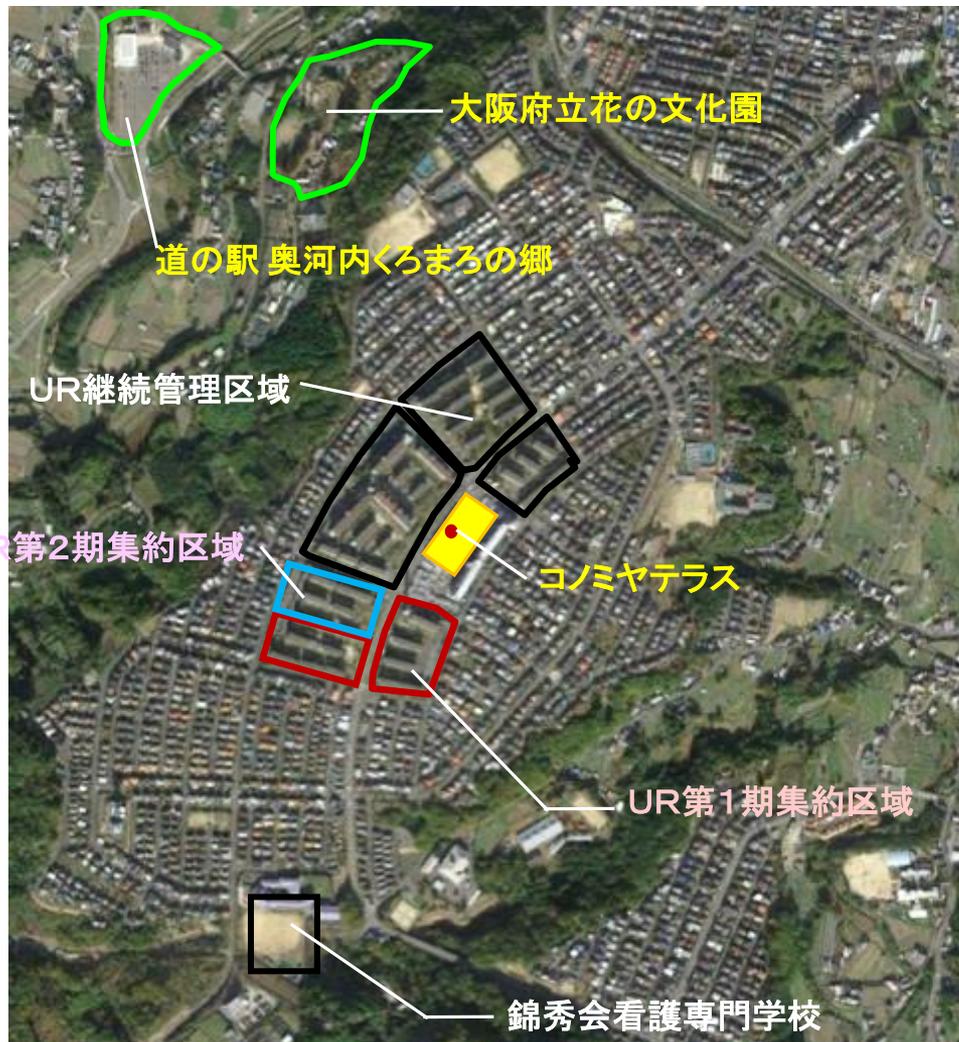
- 南海高野線
「難波」⇒「三日市町」
電車で約30分
- 近鉄南大阪線
「大阪阿部野橋」⇒「河内長野」
電車で約40分
- 南海バス
「三日市町駅前」⇒「南花台」
バスで約5～10分

■自動車

- 国道170号(外環状線)から
車で約5分

2-2. 南花台の概要

河内長野市最大の開発団地で、4年前より地方創生の枠組みで、大阪府・河内長野市・UR都市機構・関西大学と連携協定を締結し、まちづくりを推進してきたエリアである。



【概要】

- 昭和57年まち開き
- 面積約98ha
- 約3,500世帯
- 人口 7,411人(H31.3)
- 高齢化率 39.2%(H31.3)

【居住形態】

- 戸建住宅、UR賃貸住宅、民間マンションで構成される

【UR団地】

- 1200戸から900戸へ団地集約事業実施中
- UR都市機構により医療・福祉拠点として位置付け
- 集約用地に公園・医療施設・認定こども園設置予定
- 平成29年2月事業着手し平成30年2月に市とUR都市機構・関西大学でまちづくり協定を締結

【周辺エリア】

- 大矢船、南ヶ丘、南青葉台、北青葉台同様の開発団地が点在
- 近くには「道の駅 奥河内くろまるの郷」「大阪府立花の文化園」等の観光施設有り

【特徴】

- 地方創生の枠組みで4年前より

3-1. 「咲く南花台プロジェクト」の経過



■平成26年10月

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立ち上げ

- ・大阪府市医療戦略会議の7つの提言の1つ「スマートエイジング・シティ」のモデル地区として位置付け
- ・毎月1回の総合研究会と地域ワークショップを実施し、地域の声を収集しながら、まちづくりを研究
- ・「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱に事業展開

【実施体制】

地域住民を中心に大阪府・河内長野市・UR都市機構・関西大学・(株)コミヤが連携

【実施内容】

「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」に繋がる多様な取組みを同時多発的に展開

- ①まちづくり拠点(コミヤテラスの整備) ②生活支援 ③健康づくり ④子育て支援
⑤情報発信 ⑥事業者連携 ⑦ストック活用(廃校・UR団地)

※地域包括ケアシステムの介護予防と子育て支援を含む生活支援は地域の力で！

※多世代のコミュニティを創出！



3-2. 「咲っく南花台プロジェクト」の経過



■平成27年10月

「コミヤテラス」オープン

- ・コミヤ南花台店空き店舗を無償で貸与いただき整備
- ・コミヤテラスを中心にまちの課題解決につながる仕組みを構築

■平成28年 4月

第5次総合計画に南花台を「丘の生活拠点」と位置付け

- ・河内長野市南部の開発団地の生活を補完できる拠点化を目指す
- ・周辺地域への広がりを目指す

■平成29年 4月

南花台西小跡地を活用し、錦秀会看護専門学校を誘致

- ・地域との交流を通じ、特色ある教育を目指す
- ・人工芝サッカー場を整備、地域開放

■平成29年 4月

『咲っく南花台事業者の会』発足

- ・10年前に解散した商店会が若手事業者により復活
- ・南花台エリアを中心とした50以上の事業者が加入
- ・地域HP「咲っく南花台.com」を活用した情報発信やイベントの開催など南花台全体を盛り上げ



3-3. 「咲っく南花台プロジェクト」の経過



■平成29年12月

UR都市機構において

『南花台団地集約型団地再生事業』着手

- ・南花台UR団地の総住戸数1214戸のうち310戸を集約
- ・令和2年度以降の新機能設置を目指す

■平成30年 2月

『南花台地区「丘の生活拠点」に関するまちづくり連携協定』締結

- ・南花台団地集約型団地再生事業を契機として、
関西大学・UR都市機構・市が相互に連携・協力
- ・スマートエイジング・シティの形成に向けた取組みを推進

■平成30年8月

『近未来技術等社会実装事業』採択(内閣府)

- ・自動運転の実用化を目指し検討スタート

■平成30年12月

『南花台地区「丘の生活拠点」形成に向けた まちづくり連携協定』締結

- ・南花台の生活拠点化に向けて関西大学・コミヤ・市が相互に連携・協力





4. 「咲つく南花台プロジェクト」の成果 ～地域住民の声～

4-1. コノミヤテラス



- 365日オープン
- 占有せず、広場のように誰でも参加できる活動をまずやってみる場

「大学生とおしゃべりできる場所で、日常的に多世代が出会えるので楽しいし、子供にとっていいと思う。」

「目的なくふらっと来れる場所。いつも誰かが何かしていて、自分の部室みたいに思っている。」

「学校では言えないことも、テラスでは言えるみたい。スッキリして帰ってくる。」

「いままで接点がなかった世代・立場の人と知り合えて新しい視点を持てた。仲良くなった人とご飯に行けるようになった。」

「妻が亡くなり仕事も辞めて家で一人にいるが、こういう場所があるといいなと思う。」

「ラジオ体操はみんなが毎日のように来っていて、私も頑張っておよごすと思える。一人ではなかなか続かない。生活の一部に入ってるので、メリハリが出た。」

「中の様子がわかる窓があり、活動が外から見えるので、なんだか明るくなった感じがする。」



4-2生活応援



地域住民主体の生活支援

買い物応援、散歩おつきあい、犬の散歩、ゴミ捨て、庭の水やり、庭の草引き、庭の掃除等

「普段は独りでテレビを見ているだけ。買い物応援では、一緒にお話して帰ることができるので、買い物が楽しみになりました。」

「ゴミ出しのお手伝いで行きましたが、お話相手の方が長かったです。(笑)」

「応援してる側も喜んでもらえる嬉しい。草引きは大変だけど、久しぶりに気持ちのいい汗をかいた！」

「母の住む南花台でこういった取組みがあるので、安心しています。」

「ほんとはお手伝いしてあげたいが、仕事の関係でなかなか来れない。ほんのちょっとした時にお手伝いしてもらえるのは本当に助かる。」

「ヘルパーさんがインフルエンザで急に来れなくなった。買い物応援の仕組みがあって本当に助かった。」



大変御くりまして
 ありがとうございます
 今後又利用するのをお願
 いいたします。

4-3. 健康づくり



健康スタッフ・サポーターの活躍
「まちの保健室」による健康相談
咲く南花台健康ポイント制度



「活動量計を持っていると健康への意識が高まる。」

「一人ではできないが、みんなでやったら楽しくできる。あっという間に時間が過ぎている。」

「体操は参加しやすい雰囲気がある。参加メンバーが声をかけて助けてくれた。体操の先生がいっぱいいるような感じ。」

「雑談の中の日々のちょっとした困りごとや、知り合いや病院では相談しづらいような悩みごとが話せる。」

「ラジオ体操の参加者が元気になると私たちも嬉しい。」

「自分の経験したことや職能を活かしてよかったと思う。」

「看護学生が街を歩くのを見るようになった。若い人が街を歩いているだけで、まちが元気になった気がする。」

「看護学生も刺激を受けている。南花台地域は元気な人が多く圧倒されている。いい経験だと思う。」



4-4. 子育て支援



ママたちの交流の場
子育てサロンを定期開催

- ・にこにこサロン
- ・ふれあいテラス
- ・ごはんやday南花台

「お孫さんを連れてくるおばあちゃんから「助かります」」

「南花台だけじゃないつながりができるので良いと思う。」

「子育てサロンに来てママ友ができた。SNSで連絡を取り合い、遊んだりしている。」

「ふれあいテラスでは、ご飯を一緒に食べられるのがいい。」

「コノミヤは駐車場に車を止められるのと、そのまま買い物もできるので、来やすいです。」

「助産師さんに子育ての相談に乗ってもらえて、心配事が解決した。」



4-6. 事業者の会



プレミアムフライデーの開催
月末金曜日(偶数月)に
地域のお店がそれぞれ独自の企画を
打ち出して南花台全体を盛り上げている。

「新しいつながりをチカラに地域を盛り上げたい。」

「ここで働くことの価値を感じている。」

「個店ではできない取組みができるようになった。」

「知らないお店をたくさん知れてよかった。こんなにお店がたくさんあっていい街だと思いました。」

「この企画でコットンさんを知って通い続けています。意外と店に気づかなかったり、どんなお店なのか
わからないと入るのに勇気がいるので。」

「南花台の住民として地域の商店を利用したく応援したい。頑張れ南花台！」



4-7. その他の成果



地域経済の活性化
地域内交流人口増加

■ コミヤ南花台店の売り上げ改善に寄与

人口減少と高齢化の影響を受け、客数の減少と買い物単価の減少から、売り上げが落ち込んでいたコミヤ南花台店が、本事業実施後、売り上げが改善傾向に転じ、コミヤ全店舗の中で売り上げの順位も上昇！

■ 地域内での若者の交流人口が増加

- 錦秀会看護専門学校運動場(人工芝球技場)を地域開放することによりサッカーなどのスポーツを通じ交流人口が増加(平成30年度実績 24,000人が使用)
- 錦秀会看護専門学校学生が地域を活用(令和元年度 生徒数360名)



4-8. 成果の流れ



〇〇ワークショップ
(地域ワークショップ開始)

生活支援開始

まちの保健室

ファミリーサポート

商店会復活

まちづく
り機運
醸成

UR団地再編着手

すまいるルーム

ニコニコサロン

多世代
コミュニ
ティ創出

まちづく
り可能性
増大

地域住民
合意形成

コノミヤ
テラス
整備

咲っく南花台
健康クラブ立上げ

助け合い
の仕組
構築

廃校跡地に
看護学校誘致

南花台未来予想図
づくりプロジェクト開始

カヌーづくりP

咲っく南花台.COM
(まちのHP立上げ)

買い物応援

地域内の
公園集約事業着手

新たな
展開

新モビリティ
実走事業
(自動運転含む)
実証実験着手

UR団地
集約事業
新機能誘致
(医療・福祉拠点形成)



5. 自動運転実装に向けた取組み状況

■近未来技術等社会実装事業(自動運転)

➤事業実施期間:2018年度~2020年度

*「官民ITS構想・ロードマップ2018」:2020年までに「限定地域での無人自動運転移動サービス(L4)」

【自動運転の実用化に向けた課題】

○法的課題

- ・ジュネーブ条約
⇒車両には運転者が必要
- ・道路交通法
⇒運転者は車両を確実に操作し、
運転しなければならない

○技術的課題

- ・自動運転に対応した道路空間活用
- ・自動運転車両技術・運行管理
- ・採算性、持続可能性

■グリーンスローモビリティ導入実証事業

➤事業実施期間:2019年度~2021年度

⇒まずは手動運転により低速モビリティを走行させ多様なニーズを検証

⇒ニーズを確認した上で一部ルートを自動化

6. 実装事業の目的

「咲つく南花台プロジェクト」により、構築されたまちづくりの仕組みと、機運の高まりを活かし、価値ある自動運転実装を実現することで課題の解決と生活の質(QOL)の向上を図る

QOLを高める 実装イメージ

■乗ると楽しい

- ⇒まちに出たくなる
- ⇒まちに来たくなる
- ⇒多世代のコミュニティを生む
 - まちで活動する人が増える
 - まちが賑わう、活気づく
 - コミュニティが広がる

■乗ると便利

- ⇒バスに乗れる
- ⇒買い物に行ける
- ⇒食事に行ける
 - バス路線の維持
 - 地域消費の拡大

■見て楽しい

- ⇒自動運転車両がまちを彩る
- 新たなまちの文化を創出



咲つく南花台プロジェクト との連携

■健康クラブ・生活応援 子育て支援等との連携

咲つく南花台プロジェクトにより創出した地域包括ケアに繋がる仕組みとの連携により、活用ニーズを高める。

■地域事業者との連携

コノミヤ、錦秀会看護専門学校、事業者の会との連携により事業性を高める。

■まちづくり機運の高まり

地域のまちづくり機運の高まりにより、地域住民の合意形成が図れ、思い切ったチャレンジができる。



自動運転実装事業 の目的

➤健康寿命の延伸

外出するきっかけとなり、多世代のコミュニティを高める。

➤地域経済の活性化

地域に人が集まり、地域住民がまちに出ることにより、買い物や食事、バスに乗るきっかけとなる。

➤地域の魅力向上

自動運転車両がまちを彩り、多くの人がまちに出て多世代の交流を創出する。

7. 自動運転実装事業の取組み方針

【実証のスタンス】

現在進める「咲っく南花台プロジェクト」と同様に「まずはやってみる、やりながら考える」を基本スタンスとし、地域住民の課題解決とQOL向上の効果をあらゆる角度で検証しつつ、地域住民の生活に機能する実装を実現する。

【実証検討の必須条件】

1. 車中心の生活から脱却し、環境に配慮できるまちを地域と一体で創出すること
2. 地域の課題を具体的に解決するものであること
3. 地域住民の生活の質(QOL)を高めるものであること
4. 自立性のある運用ができる仕組みを構築すること
5. 将来にわたり継続的に運用できる仕組みを構築すること
6. 他地域への横展開ができる汎用性のある仕組みを構築すること

8. 使用車両(グリーンスローモビリティ)

手動運転による公道走行が可能で、電磁誘導式による自動運転の可能性を持つ電動ゴルフカート7人乗りを使用

モデル名称	AR-07 (オールラウンド7人乗)	
自動車の種別	小型自動車	
燃料の種類	電気 (Li-ionバッテリー)	
車軸寸法 (cm)	全長	396
	全幅	133
	全高	184
	ホイールベース	294
	最低地上高	11.5
重量 (kg)	車軸重量(バッテリー含む)	550
	車軸総重量	935
性能等	定格出力(kW)	0.6
	最高速度(km/h)	19
	最小回転半径(m)	4.5
	乗車定員(人)	7

- 低速で安全性の確保が容易
- 車幅が狭く交通への影響最少
- 乗り降り容易な低床車両
- 開放感がある
- 経費(ランニング・イニシャル)が安価



9-1. 実験概要

『開発団地におけるグリーンスローモビリティを活用した
QOL(生活の質)向上モデル事業』
(環境省:IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業)

【実施内容】

- グリーンスローモビリティのニーズ検証・把握・実走に向けた仕組み構築
⇒デマンド走行、特定ルート走行など多様な活用ニーズを検証
- 利用利便性を高めるIoT開発
⇒NTTドコモ「AI運行バス」を活用した予約運行システム開発
- CO2削減に向けた取組み
⇒グリーンスローモビリティ活用や環境に配慮した暮らしの提案

＜参画事業者＞



9-2. 実験概要

NTTドコモ「AI運行バス」システムを活用した実装イメージ

予約登録

乗車

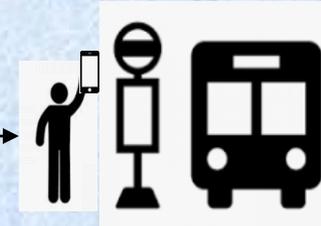
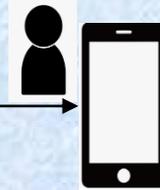
①アプリ/Webサイト、
または②電話で乗車予約

乗車予定時刻確認

バスが来たら乗車

※バス停での乗車
または、あらかじめ
予約登録した地点
からの乗車が可能

利用者



運転席の端末で
行先や乗客情報
などを受信



AI運行バス

運行
管理者

コールセンターで
予約登録

※電話での「乗車希望日時」、
「乗車地」、「降車地」を予約
システムに登録

9-3. 実験概要

NTTドコモ「AI運行バス」システムを活用した実装イメージ

システム

運行概要

利用者

利用者用アプリ
(Android・iPhone・Webアプリ)



- ・乗降ポイントは施設名又は全ての電柱(乗降番号付与)
- ・家にいちばん近い電柱の乗降番号を乗車ポイントとして指定
- ・行先名又は行先にいちばん近い電柱の乗降番号を降車ポイントとして指定

AI運行バス

ドライバー用アプリ
(車載タブレット)



- ・ドライバーはAI運行バスにより導き出された最適ルートをも바일を通じ指示を受け、その指示に従い乗降ポイントで停車
- ・ドライバーと介添えや緊急時の対応を行う補助者の2名で運行
- ・乗客が乗っているときは原則10km/hの速度で走行

運行
管理者

コールセンター/
運行管理者用アプリ



- ・電話予約の受付、システム入力
- ・電話予約者に対し到着予定時刻連絡
- ・予約状況の確認集計
- ・運行状況の確認
- ・利用料金の管理(来年度以降予定)

9-4. 実験概要

地域運営体制イメージ

体制支援（社会福祉協議会）



広報部

- 実証実験への協力呼びかけ
- 運行方法の周知

車両運行部

- 車両の運行
- 車両の管理

運行管理部

- 運行の管理
- 予約システムの管理
- 会計管理（来年度以降予定）

運行企画部

- 総合調整
- 運行手法の検討、調整 等

（地域から募集）
運営メンバー

地域住民主体の
有償運送による
自立運営を目指す！



9-5. 実験概要

CO2排出削減の取組み



<取組み方針>

- グリーンスローモビリティの普及活用による自家用車の使用抑制 (ガソリン車⇒電動車への転換促進)
- CO2排出削減につながる、環境に配慮した暮らしの提案・啓発

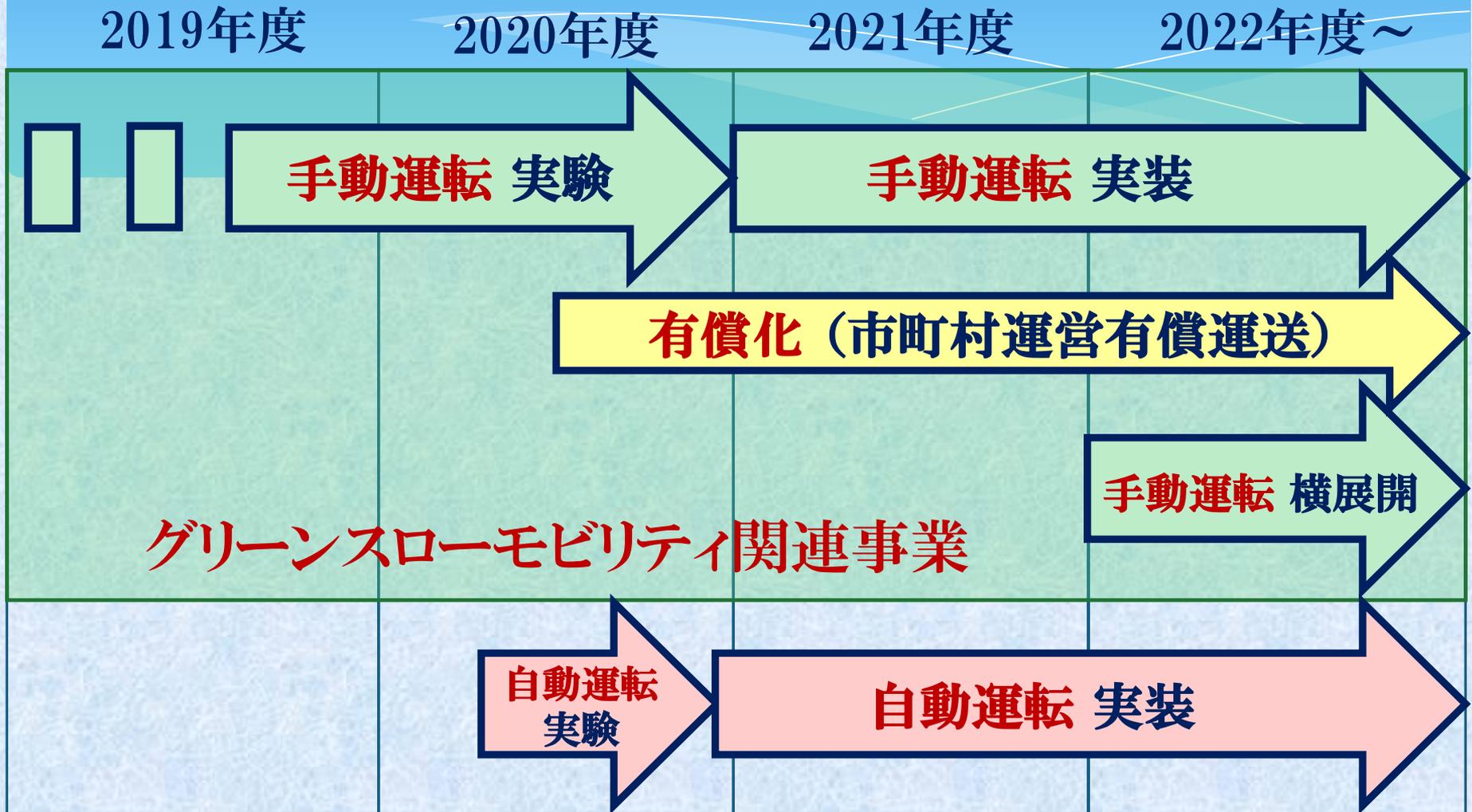


**環境に配慮しながら、健康で楽しく
いきいきと暮らし続けられるまちの実現**

関西電力、関西大学(社会学部)等と連携し、住民意識アンケート、環境測定調査、環境啓発の取組みを推進

10. スケジュール(想定)

段階的な検証を重ねながら、着実に価値ある自動運転実装モデルを構築する。



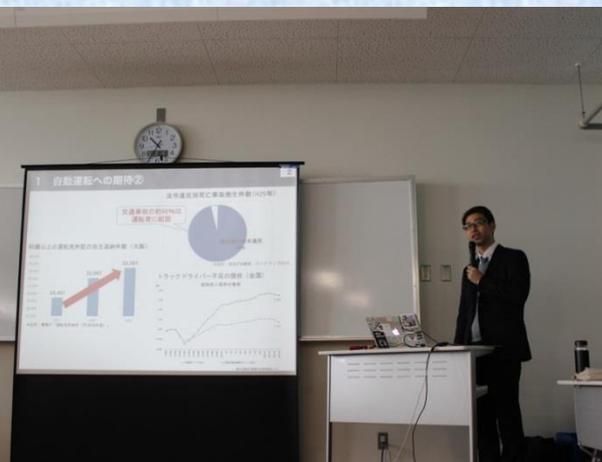
11-1. 南花台住民説明会

現状の検討内容を説明

日時 平成31年2月16日(土)午前10時～
場所 錦秀会看護専門学校3階多目的室
参加者数 92名

【説明内容】

1. 咲つく南花台プロジェクトの現状
2. 自動運転の現状
3. 近未来技術等社会実装事業について
(説明内容は協議会内容とほぼ同様)



11-2. 南花台住民説明会アンケート調査結果

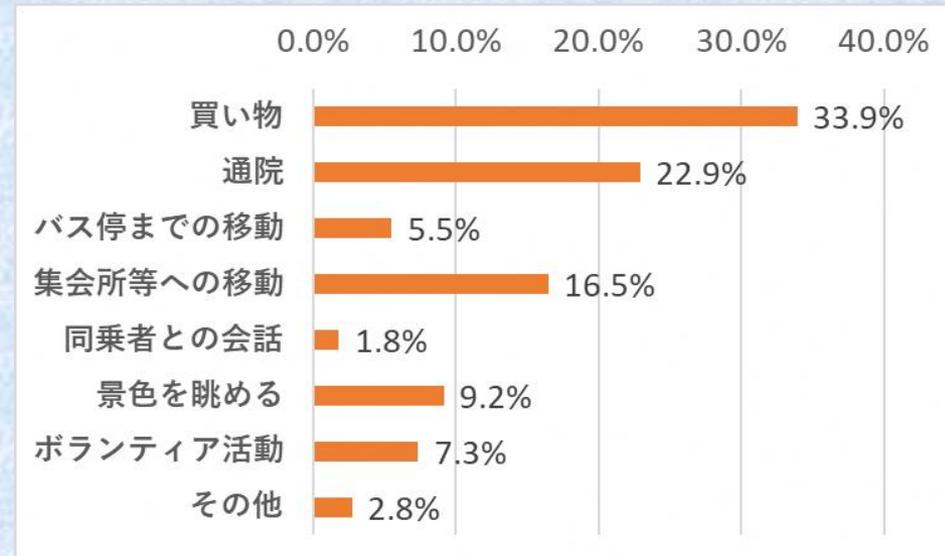
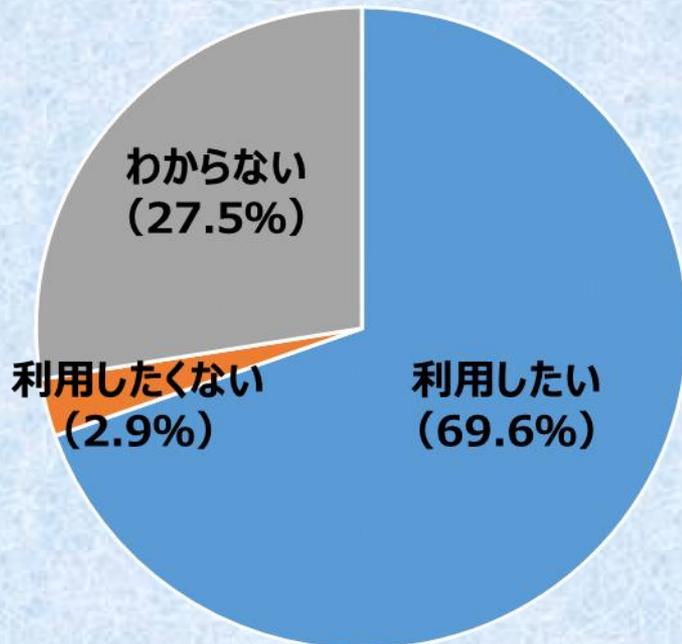
【アンケート回答者】

男性 33人 女性 36人 回収率 75%

65歳未満 15人 65歳以上80歳未満 43人 80歳以上 11人

Q 本日の説明会を聞いて自動運転による移動サービスを利用したいと思いますか？

Q 自動運転車両を、どんな用途で利用したいですか？



11-3. 南花台住民説明会アンケート調査結果

【期待】

●高齢になっても住み続けられる環境になればありがたいし、モデルとなりうる。(地域活性) ●南花台で実装できれば、住居としての価値も上がり、人も集まる。老人だけでなく子育て世代にも有効。 ●少しずつでも進めてほしい。全力で協力します。 ●QOLを高めることが大事。自動でなければならぬという概念は捨てて、とりあえずは手動でも長く続けられることが大事だと思う。 ●いろいろな課題があることが分かった。一日でも早く実現されることを望む。 ●咲く南花台の活動の延長として、活用できるといい。 ●今のところ元気だが、身体の調子によって利用させてほしい。 ●地域に知人ができる可能性が広がる。夢があって面白い企画だと思う。 ●実用化には思っていたより時間がかかりそうだが、早く実現してほしい。 ●集会所にはあまり車で行けないので、カートがあれば便利だと思う。 ●南花台だけでなく、将来、奥の団地(大矢船、南ヶ丘?)とも結べば利用者が増えるのでは。 ●現在は自分で運転できるので必要性を感じないが、将来、免許を返納したり、コノミヤまでの移動が困難になったときは利用したい。 ●これまで、自動運転(完全自動化を予定)は不可能と考えていたが、今日の説明会で疑問に思っていたことが理解できた。実用化に向けて様々な角度から検証を行い、他地域にも展開できることを期待したい。 ●中国が自動運転では相当進んでいると思いますが、レベル数でいざよどの程度ですか? ●買い物は、くろまろの郷や、豆の蔵に行きたい。ルート走行時に手を挙げたら乗れるようになると、しんどい時に利用できて良いと思う。 ●キックスや錦溪園にも行きたい。 ●南花台が明るく楽しい町になりそうな予感がする。 ●南花台の高齢化、免許返納、各集会所での活発な活動など、この事業への期待は大きい。住民のニーズに応えられる運行をお願いします。 ●南花台内の移動だけでなく、上原町の商業地域への交通手段を考えてほしい。高向地域の再開発もあるようなので。 ●ぜひ実現を!

【課題】

●一般車との共存は課題。 ●事故が起きたときが心配。 ●冬は風よけシートで暖かいとのことだが、雨の日はどうなのか。 ●一般車両も自動運転化されることを期待。 ●よくわからない。 ●観光地を結ぶルートは、一般道を走ることになるので、車両自律型でないとルール化は難しいのでは? ●自動運転車賛成!の気持ちで来ましたが、電磁誘導ですって?よく考えてみたいと思います。 ●安全を考えて、ゆっくり実行に持って行ってほしい。

【提案】

●ゆっくり走行するので、追突されそう。一般車の全てに追突防止システム導入が必要では。 ●①駅までのルート②医院を回る③買い物の店舗を回る、など、目的別にルートを作ってはどうか。 ●説明会だけでなく、実際の運営にも住民が参加できるようにすべき。 ●次の説明会では一度乗ってみたい。 ●実際の利用には、利便性が大切。「ニーズに応えることが成功のカギ」 ●電磁誘導の線を張り巡らして、自己所有のカートで南花台の中を自由に動きまわれば嬉しい。個人も費用を一部負担する。ただし、人・車との接触の回避が必要だが、目的地での駐車場も必要だから無理ですね。自動誘導はGPSと電柱を使っては?